

市制60周年

鹿沼市の歩み ①

～ 昭和23年 市制施行 ～

懐かしい写真や当時の話題を紹介しながら、市民のみなさんと歩み続けた60年を振り返ります。



▲市制施行を祝う商工振興祭のポスター

（昭和23年10月8日付 下野新聞）
栃木県立図書館所蔵

当時の新聞記事では、省線（現JR）鹿沼駅前に設置されたアーチや祝賀行事の予定を伝えています。市制施行を10日に控えた鹿沼市の祝賀行事は7日全町全店参加の福引大売出しと中央小に開かれた物産展覧会および飛入勝手の音楽コンクールなどによって華々しく開幕された。続いて8日には御殿山グラウンドで全国自転車競技大会が催され、さらに東武駅前に優良農業資料展示会が開かれる、同町が町制を施行したのは明治23年で今年で58年目で住民歓喜の中に本県5番目の市制を施行されることになったわけである。：（中略）：鹿沼は初代町長大谷瀬平氏から現町長鈴木金一郎氏に至るまで14代の町長が就任、当時人口7,785人であったのが、現在32,980人という、：（中略）：黒川の清流が市街の東南を貫流し地勢的に見ても前途洋々たるものがある。

発行 鹿沼市 〒322 8601 栃木県鹿沼市今宮町一六八八一

0289(63)2128

編集

秘書室広報係

印刷

晃南印刷株式会社

川上澄生美術館からのお知らせ
問い合わせ ☎(0289)2772
6月28日(土)から2階展示室で、「市制六十周年記念 美しき静の世界 曾我芳子回顧展」を開催いたします。

「王子製紙」(版画集)「苦小牧」
1948年(昭和23年)
木版多色刷
(画面寸法 縦136cm×横184cm)



学芸員 原田敏行

戦後3年が経過し、日本全体は明るい未来を指して歩き出していました。本作は、休むことなく経済発展を続けるそんな日本の姿を捉えているかのようです。

「やってみると面白くなって大馬力をかけた」とその感想を述べています。

鹿沼市は昭和23年10月10日に誕生し、今年で市制60年を迎えます。本市が誕生した年、53歳の川上澄生は北海道の南にある海沿いの町、白老で生活をしていました。それまで住んでいた栃木県とは景色も気候もまるで違う場所です。

本作は白老の隣にある苦小牧の風景を描いたものです。画面は灰色に覆われ、ビルや煙突からはモクモクと煙が上がっています。澄生は煙を白で薄く刷ることで、実際の煙の色に近いよう試みていることがわかります。作品は油絵具で刷られ、

川上澄生の世界

作品紹介 118